



DDW-Japan 広報

日本消化器関連学会合同会議
〒104-0061 東京都中央区銀座8-9-13
銀座オリエントビル9階
TEL:03-3573-1254 FAX:03-3573-2198
発行者: 中澤三郎
URL: http://www.ddw.jp
編集責任: DDW-Japan 企画会
印刷: 株式会社 杏林会

DDW-Japan 1998 アンケート 調査報告



日本消化器関連学会合同会議
企画会担当世話人 谷川久一

DDW-Japan 1998 広報委員 川原田嘉文, 伊佐地秀司
DDW-Japan 企画会 谷川久一, 岩崎有良

はじめに

わが国で日本消化器関連学会合同会議 (DDW-Japan) が発足して6年になりますが、1993年に「スリムでアカデミック」を基本理念に神戸で開催されて以来、回を追って益々盛んになっております。今回の第6回 DDW-Japan 1998 (4月15日～18日, パシフィコ横浜) の会期中の参加人数は11,585名と過去最高を記録致しました。会期中はどの学会にも参加できるというメリットがありますが、反面各学会の独自性が失われざるべからざるという意見もあります。このような観点を踏まえて、今後のDDWのあり方を再考する目的でアンケート調査を行いましたので、その回答の概要を紹介致します。なおアンケート回答者数は430名でした。

1. 学会参加者の背景因子

参加者の所属施設をみますと、一般病院が最も多く46%、次いで大学関係が32%、診療所勤務は10%であり、昨年と同様でありました (図1a)。参加者の年代は30歳代および40歳代がともに31%ですが、20歳代は3%であり昨年の7%と比べ減少しております (図1b)。

参加者の所属学会につきましては (複数回答)、多い順に消化器病学会384名、消化器内視鏡学会334名、肝臓学会174名、消化器外科学会87名、胆道学会73名、膵臓学会67名などでした。

2. DDW-Japanの開催地、期間

開催地は、地方都市ではなく大都市で、神戸・横浜の2会場の交代性や固定を希望する意見がありました。学会の開催期間については、一昨年3日間にしたところ参加したい演題の重複が多くなり不評でしたので、昨年は4日間に戻り、今回も昨年同様4日間といたしました。今回のアンケート結果では、「3日もしくは4日間が良い」とする意見がほぼ同数で9割を占めておりました (図2a)。とはいえ、実際の参加日数は約半数の方が2日間であり、次いで3日間が26%で、4日間すべてに出席された方は13%でありました (図2b)。これを参加者の所属別にみますと、大学病院や一般病院では3日以上参加された方はいずれも40%を占めておりましたが、診療所の勤務医では3日以上参加された方は15%にすぎず、2日参加の方が50%でした。

3. 参加学会数、参加費に関する意見

今回は消化器病学会、消化器内視鏡学会、肝臓学会、膵臓学会、胆道学会の5学会が全面参加し、消化器外科学会、消化器外科学会、大腸肛門病学会の3学会が部分参加し開催されましたが、参加学会数につきましては「ちょうどよい」とする意見が7割であり、2割は「多い」という回答でした。なお全面参加して欲しい

第6回DDW-Japanも運営委員の先生方の御努力もあって無事盛會のうちを終了することが出来た。出席者も1万名を越え年々増加をたどっていることは、この会が存在意義のあるものであることを示すものであろう。それはこのアンケートで「今後も続けるべき」「次回も参加したい」とする回答が多いことからもうかがわれる。一方毎年のアンケートで際立っているのはおよそ半数の方が「参加費が高い」と回答しておられることである。DDW-Japan 企画会でも、招待者の削減など経費の軽減に努力をしているが、更に抜本的な軽減の努力をすすめるつもりである。御理解いただきたいのは、企業からの寄付が近年非常に難しくなっていることである。

また本年より DDW-Japan が秋に行われ、消化器、消化器内視鏡、肝臓などの学会は大会参加となり、したがって内容的にも従来の総会参加と異なったものにならないことなど、今後のDDWの運営や内容を大々的に検討しなければならない時にきている。より良いDDW-Japanの実現のため、今後とも多くの御意見をいただくことを期待している。

学会としては (複数回答)、多い順に消化器病学会231名、消化器内視鏡学会221名、肝臓学会166名、膵臓学会130名、胆道学会127名、消化器外科学会114名、大腸肛門病学会102名などでした (図3)。

参加費については、今回は昨年と同様25,000円 (事前登録は20,000円) でありましたが、「今のままでよい」は14%にすぎず、47%の方が「高い」という回答でした。また「一日券を設定すべき」という回答が19%ありました (図4)。なお「全般的な改訂を望む」と答えられた方 (5%) に具体的な意見を伺いますと、「参加学会、日数、ポジションにより金額をかえるべき」、「会場経費を下げるべき」、「事前登録をもっと安くして欲しい」、「毎回収支0にし、年度毎に新たに計画すべき」などでした。

4. 演題について

演題数については「ちょうど良い」が65%であり、「多い」という意見も32%にみられました。内容について望まれることは、「臨床に役立つものをもっと多くして欲しい」、「一般病院勤務医にも参加しやすい内容」、「目新しいものが少ない」といった意見などがありました。

時間帯については、「参加したいセッションが分散していた」という回答が64%を占めました。「重なっていた」という回答も36%にみられました。具体的に参加したいセッションが重なっていたものとしては、シンポ9 (大腸腫瘍に対する内視鏡的摘除の評価とフォローアップ) とパネル7 (胃のEMRと内視鏡下手術法の接点) が7名、ワーク5 (C型肝炎の経過予後と修飾因子) とワーク7 (肝画像診断の進歩) が5名、パネル5 (急性膵炎の診断基準と重症度判定の諸問題) とパネル6 (生体肝移植の現況と今後の展望) が4名などでした。

5. 個々のセッションについて

(1) 合同プログラムでは、「充実～やや充実」という回答が36%、「普通」56%であり、「やや悪い～悪い」とした8%で「各プログラムに関連性がない、広すぎてディスカッションしにくい」といった意見がありました。

(2) シンポ、パネル、ワークについては、「現状でよい」としたのが62%ですが、「段階的に数を減らす」としたものが24%であり、「それぞれ (シンポ、パネル・ワーク) の区別がわからない」、「ディスカッションを充実させるべき」という意見もありました。また「シンポなどの主題はその時における学問的内容を特にconsensus meetingの性格をもたせてまとめるべきである」という建設的な意見もありました。

(3) 教育講演については、「充実～やや充実」という回答が28%、「普通」61%であり、「やや悪い～悪い」とした11%では「もっと数を増やして欲しい」、「内容が偏っている、いろいろな分野であるべき」といった意見がありました。

図1. アンケート回答者

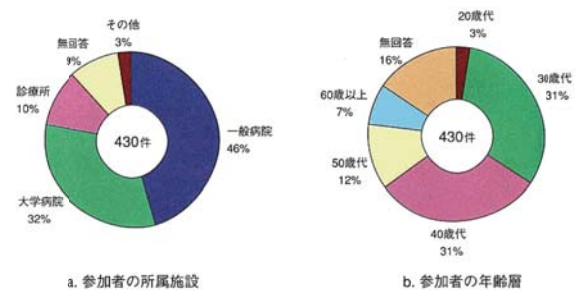


図2. 開催期間について

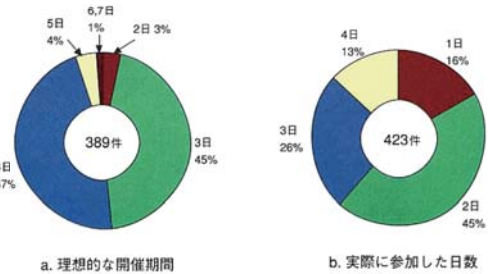


図3. 前面参加を希望する学会

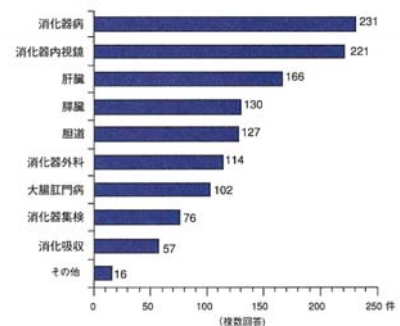


図4. 参加費について

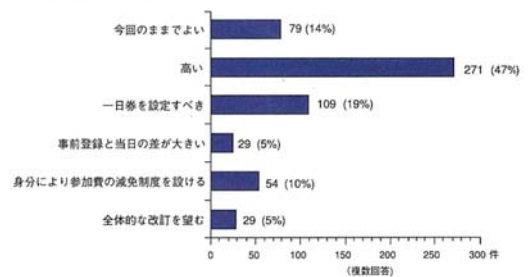


図5. 抄録集のCD-ROMについて

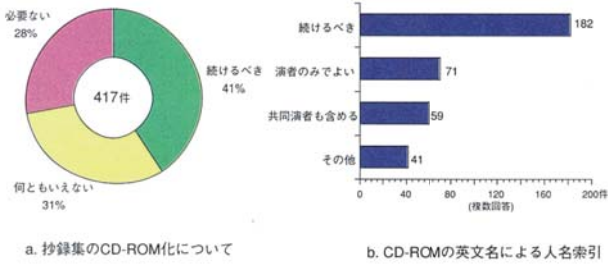


図6. 会場について

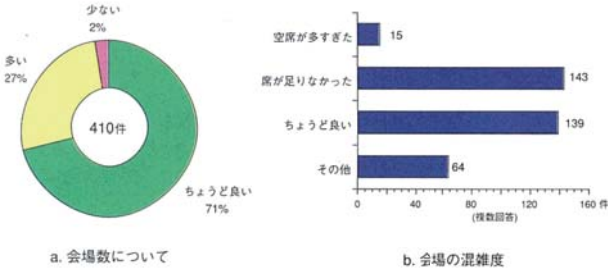


図7. DDW-Japan 1998に対する満足度について

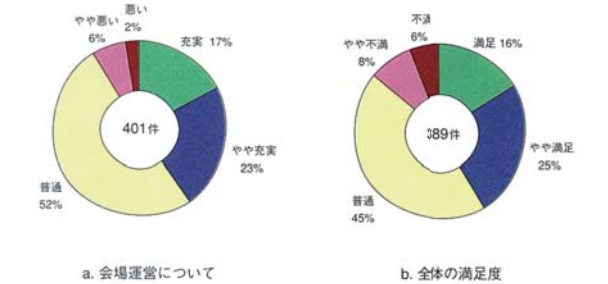
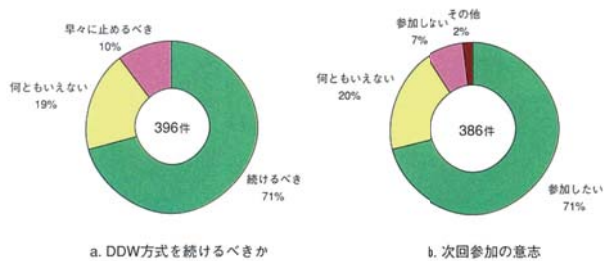


図8. 今後のDDW方式について



(4) 他には、「肝臓のセッションを広げて欲しい」、「実技のビデオを一日中流して欲しい」、「内科・外科・病理・免疫などの多角的な企画を」という提案もありました。

6. ランチョンセミナーについて

学会開催時の昼食確保は大きな問題の一つでもあり、最近では学術情報と昼食を兼ねるランチョンセミナーの開催が一般的となっています。ランチョンセミナーの食事については、「普通」44%、「良い」20%で

したが、「食事の個数が足りない、数を増やすべき」という意見も21%みられました。また今回は、例年会場入り口での混雑が問題となっていましたので、整理券方式を導入いたしました。しかし、「整理券発行所場所の案内が不十分」、「整理券を配る場所を増やしてほしい」、「整理券を配っていても、きちんとした誘導がないため、結局、混乱していた」、「整理券をもって入っているのに入れないセミナーがあった」などの意見もありました。

7. 抄録集のCD-ROM化について

昨年より抄録集のCD-ROM化が行われましたが、人名検索が演者のみであり、利用価値が少ないなどの意見があり、今回は演者、共同演者とも英文名で検索できるようにいたしました。今回のアンケート結果では、抄録集のCD-ROM化について、「続けるべき」が41%、「何ともいえない」が31%であり、「必要ない」は28%でした(図5a)。英文名による人名索引については(複数回答)、「続けるべき」182名、「演者のみでよい」71名、「共同演者も含める」59名でした(図5b)。会場内に設置したCD-ROM検索については、「役に立った」が16%、「場所がわからなかった」は19%と2割を占めており、設置場所のPRが必要だったように思われます。

8. 会場および運営全般について

会場数については、「ちょうどよい」が71%を占めておりましたが、27%の方は「多い」というご意見でした(図6a)。会場の混雑度については(複数回答)、「席が足りなかった」が143名、「ちょうどよい」が139名とほぼ同数であり、「空席が多すぎた」と答えた方は15名でした(図6b)。「席が足りなかった」と答えた方の会場についてはワークやパネル、シンポなど主題関連のところが目立っており、具体的なご意見としては、「会場が狭く立ち見が多い」、「テーマ毎に人気と入場者数を考えた上で会場を設定して欲しい」などで、特にランチョンセミナー全般、肝画像診断、肝炎、*H. pylori*関連で足りないということでありました。

休憩コーナーについては禁煙の休憩所やコーヒーサービスの増設の希望を(「十分でなかった」24%)、昼食については弁当・売店を充実させて欲しい、他にクロークが不十分といった意見もありました。

会場までの交通機関については、学会専用バスは「便利であった」38%、「便数が少ない」43%であり、時間帯と本数の少なさが挙げられており、他に不満とする意見では、「駐車場の割引券が欲しい」、「サテライト後の交通機関がタクシーしかない」などでした。運営全般については、「充実～やや充実」という回

答が40%、「普通」52%でありましたが(図7a)、「会場場所がわかりにくい、矢印などの誘導看板が足りない」などのご意見もみられました。

9. DDW-Japan 1998 (Yokohama) に対する満足度について

今回のDDW-Japanに対する全体の満足度については、「満足」16%、「やや満足」25%、「普通」45%であり、「やや不満」や「不満」と答えた方は14%でありました(図7b)。「やや不満」、「不満」と答えられた方の具体的な内容については、「聞きたい講演の時間重複が多すぎる」、「臨床に役立つものが減って、専門的なものが多い」、「アメリカDDWでは全体の抄録集があるのに、DDW-Japanではないのはおかしい」などの意見がありました。

10. 今後のDDW方式について

今後のDDW方式については、「続けるべき」が71%を占めており、「何ともいえない」19%で、「早々に止めるべき」は10%にすぎませんでした(図8a)。DDW方式に批判としては、「参加費が高いのでDDWのメリットが少ない」、「本来の目的はスリム化であり、参加者の負担を少なくする目的で発足したのではないか」など経済的負担に関するものが目立ち、その他は「内容が広範囲すぎる」、「学会集積に関しては都合がよいが、各学会の存在が希薄である」など各学会の独自性を尊重するご意見もみられました。なお今回のDDW-Japanへの参加の意志については、「参加したい」が71%で、「何ともいえない」20%、「参加しない」7%でした(図8b)。

DDW-Japanの主旨は開催側と参加側双方の経済的負担の軽減と、参加学会の独自性を保ちながら効率的な情報交換と研修を計ることにあります。しかし、今回のアンケート調査からはこの主旨が必ずしも達成されているとはいえ、今後も弛まぬ努力が必要であり、関係諸氏のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

DDW-Japan 1998 全面参加学会

- 第29回 日本膀胱学会大会
会長 川原田嘉文 (三重大学第一外科)
- 第55回 日本消化器内視鏡学会総会
会長 斉藤 利彦 (東京医科大学第4内科)
- 第34回 日本肝臓学会総会
会長 戸田剛太郎 (東京慈恵会医科大学内科学講座1)
- 第84回 日本消化器病学会総会
会長 比企 能樹 (北里大学外科)
- 第34回 日本胆道学会大会
会長 藤田 力也 (昭和大学藤が丘病院内科)

部分参加学会

- 日本消化吸収学会会長 梅田 典嗣 (国立国際医療センター)
- 日本消化器外科学会会長 二川 俊二 (順天堂大学第2外科)
- 日本大腸肛門病学会会長 北条 慶一 (公立昭和病院)